

一般

段級

〔奥の細道〕
 白河の関を超え奥州路に入ると、まさに田植えの真つ盛りで農民たちが田植え歌を歌っていた。そのひなびた響きは、陸奥で味わう風流の第一歩となった。「何も作らずに関をこすのもさすがに残念ですから、こんな句を作ったのです」と語ればすぐに俳諧の席となり、脇・第三とつづけて歌仙が三巻も出来上がった

とつづけて三巻となしぬ。

無下むげにいえむもさすがにいと語れば、脇・第三

句の部分
 やや大きめに
 風流ふうりゅうの
 初はつめやおくの
 田植たうえうた

